



# 第3回「諏訪湖まるまるゴミ調査」結果

諏訪湖創生ビジョン推進会議

- 1 調査目的 諏訪湖全域でゴミの調査を行い、「諏訪湖のゴミの現状」を明確化する。得られたデータの集積及び公表により、流域内にお住まい、お勤めの皆様に関心を高めるとともにゴミの発生抑制に繋げていく。
- 2 実施日時 令和4年10月1日（土） 午前7時10分から概ね50分間
- 3 参加人数 32名（グループ数 6） 諏訪湖創生ビジョン推進会議構成員、行政機関
- 4 実施エリア 5エリア（別紙のとおり）

5 調査種類 18種類（飲料ペットボトル、ペットボトルのふた(単体)、レジ袋、肥料袋、カップ型飲料容器、空き缶(アルミ)、空き缶(スチール)、ビン、ストロー、紙くず、ビニール破片、たばこの吸い殻、食品トレー、発砲スチロール、弁当・惣菜などの容器、苗用ポット、プラスチック破片、マスク)  
 ※下線はプラスチック製品由来。たばこの吸殻については、フィルター部分が大部分を占めることから、プラスチック製品由来に分類。ビニール破片はお菓子の包装等の軟らかいプラスチック破片。プラスチック破片は硬いプラスチックの破片。

## 6 調査結果

諏訪湖周のゴミの数量はプラスチック製品由来のものが全体の約9割を占め、その内の約6割が小さなビニール片やプラスチック片でした。

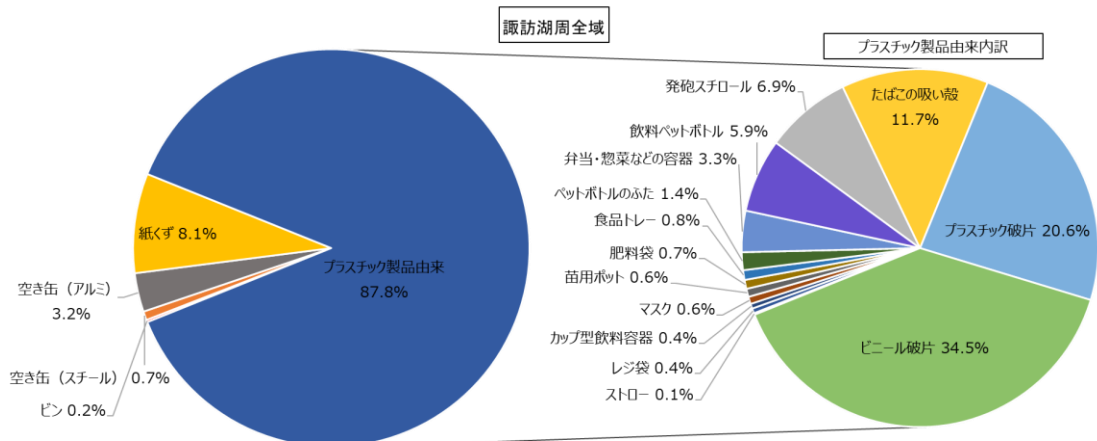
(1)回収量 諏訪湖周全域で回収したゴミの数と重量は以下のとおりです。

回収量（個）	全種類計：1,555個（内プラスチック製品由来：1,366個）
回収量（kg）	可燃ゴミ：110kg、不燃ゴミ：120kg

種類	回収量（個）					計（全域）
	①	②	③	④	⑤	
1 飲料ペットボトル	3	7	27	51	3	91
2 ペットボトルのふた	7	1	5	7	2	22
3 レジ袋	2	2	2	0	0	6
4 肥料袋	0	0	11	0	0	11
5 カップ型飲料容器	3	1	1	0	1	6
6 空き缶（アルミ）	1	0	20	19	9	49
7 空き缶（スチール）	0	0	0	8	3	11
8 ビン	0	0	1	2	0	3
9 ストロー	0	0	0	1	1	2
10 紙くず	6	12	42	25	41	126
11 ビニール破片	103	16	326	54	37	536
12 たばこの吸い殻	1	19	26	42	94	182
13 食品トレー	2	0	6	4	0	12
14 発砲スチロール	36	21	20	29	1	107
15 弁当・惣菜などの容器	1	9	34	7	0	51
16 苗用ポット	0	0	7	3	0	10
17 プラスチック破片	55	35	59	93	79	321
18 マスク	3	0	1	2	3	9
合計	223	123	588	347	274	1,555
(内)プラスチック製品由来	216	111	525	293	221	1,366

※網掛けはプラスチック製品由来

(2)回収割合 諏訪湖周全域の個数の割合を示します。エリアごとの割合は別紙のとおりです。



## 7 ふりかえり

調査の後、「ごみ拾いで感じたこと」、「諏訪湖にごみがあると、自然やみなさんのまわりにどんな影響があるか」、「ごみは、どこからやってきたか」という問いかけに関してグループごとにふりかえりを行っていただきました。

「ビニール片、プラスチック片が非常に多かった。」、「湖岸（波打際）にごみが多い傾向がある。」、「景観が悪くなり、観光客や地域住民に悪い印象を与える。」などの意見が寄せられました。

また、調査前に降雨がなかったことも影響してか、「水門にごみがたまっていることが多いが、今日は少ない。」といった意見も寄せられました。また、「ごみが思ったより少ない。」、「マナーが良くなってきたと思う。」など、地域の皆様の日ごろのご尽力や意識の変容をうかがわせるようなご意見もありました。各エリアの主なご意見等は別紙をご覧ください。

また、「今後も拾えるところは拾っていきたい。」など、イベントの機会だけではなく、日ごろからこうした取組を行いたい、というご意見をいただくこともできました。

## 8 調査の様子



開会式 メイン会場(エリア③)



水辺での調査実施中



グループごとのふりかえりの様子



閉会式 メイン会場 (エリア③)

## 9 まとめ

プラスチックは成形しやすく衛生的であることから、身の回りの様々なものに使われています。しかし、紫外線や熱に弱いため、屋外で長く使われたものは劣化により細かくなり、風に飛ばされたり、雨に流され、31本の流入河川を通じて諏訪湖に流れてきています。

家や学校、お店や事業所の周り、さらに街中、農地等にある、劣化が進んだプラスチック等を片付けることで、諏訪湖の細かなごみを減らすことができます。「ごみの無い諏訪湖」、また今世界的に問題となっている海ごみを無くすためには、まずは身近な場所の点検と片付け、そしてごみを拾うことから始めていくことが重要です。

## 10 今後

コロナ禍ということもあり、第3回「諏訪湖まるまるゴミ調査」は諏訪湖創生ビジョン推進会議の構成員及び行政機関のみでの実施となりましたが、調査にご参加いただいた方に多くのごみを回収していただき、実態把握に繋がるデータを得ることができました。

今後は、調査により得られたデータを集積し、公表していくことで、流域にお住まい、お勤めの皆さまに関心を寄せさせていただき、ごみの発生抑制につなげ、「ごみの無い諏訪湖」を目指していきます。

調査は今後も引き続き実施していく予定です。